秋高 同窓会だより

題字は辻兵吉会長

発行者　秋田県立秋田高等学校同窓会
秋田市手形中台1番地
TEL 018（832）9553
印刷　有限会社　三浦印刷

新春随想　西木正明
論壇　丸の内くるみ
恩師訪問　神馬　暹先生
詩　寺田和子

雪のうぐいす坂　登校風景

総会報告・記念講演要旨
つどい
個人情報の取り扱いについて
部活動の記録

〈同窓会だよりは再生紙を使用しております〉

慶祝 辻会長らに叙勲

二〇〇五年秋の叙勲・褒章等で塚本隆久（昭29卒）、辻兵吉（昭19卒）、佐藤時幹（昭17卒）、信太敏彦（昭29卒）、菅原脩二（昭22卒）、矢野浩（昭26卒）、佐々木毅（昭36卒）、井上隆明（昭25卒）、中村正（昭17卒）の各氏が受章（賞）されました。心からお祝い申し上げます。

☆瑞宝重光章

塚本隆久氏（昭和29卒）農林水産行政事務功労。元林野庁長官。

☆旭日中綬章

辻　兵吉氏（昭和19卒）産業振興功労。昭和六十一年から通算十五年間、秋田商工会議所会頭。平成十五年から秋田高校同窓会会長。

☆旭日小綬章

佐藤時幹氏（昭和17卒）地方自治功労。元阿仁町議会議員、同議長。

☆瑞宝双光章

信太敏彦氏（昭和29卒）郵政事業功労。元金岡郵便局長。

菅原脩二氏（昭和22卒）学校保健功労。能代市内の小中高校の学校医を長く務める。

矢野　浩氏（昭和26卒）教育功労。能代一、東雲、八森中学校長などを歴任。

☆紫綬褒章

佐々木毅氏（昭和36卒）政治学・政治思想史研究功績。東京大学法学部教授、学部長を経て平成十三年から同大学長を四年間。現学習院大法学部教授。

☆地域文化功労者

井上隆明氏（昭和25卒）元秋田経法大学長、文芸評論家。

☆学校保健・文部科学大臣表彰

中村　正氏（昭和17卒）元秋田北高等学校・学校歯科医。

新春随想

人口減は千載一遇の好機

西木　正明
（作家・昭和34年卒）

明けましておめでとうございます。二十一世紀に入って早くも六年目の新春を迎えました。この間、世界はますます混迷の度合いを深め、私たちの前途も視界不良です。

そうした不安材料の中で、秋田のみならず日本全体の焦眉の問題は、やはり少子化による人口減少と、社会全体の高齢化であろうと思います。政府などの予測では、百年後日本の人口はほぼ半減するといわれています。

現在の人口はおよそ一億二千万人余りですから、二一〇〇年代のはじめのわが国の人口は、約六千万人前後ということになります。問題は、この数字をどう受け止めるかです。

過去の統計によると、六千万人という数字は今から七十七年前の一九二九年、すなわち昭和四年ごろの日本の総人口に匹敵するそうです。つまり、わたしたちはそれだけの年月を費やして増やした人口を、およそ百年かけて元に戻そうとしていることになります。

昭和初期といえば、日本の社会が農業や軽工業を中心とする時代から、重工業型への転換をめざしつつある時期で、その軋轢がもたらす激烈な不況に陥っていた時期です。折しもアメリカ発の大恐慌の影響をもろに受け、日本国内での生活に見切りをつけた人々が、満州をはじめとする大陸に、大挙して出て行った時期でもありました。

時代の大転換期という意味では、この十数年はまさにそうだったと思います。昭和初期との違いは、当時は有り余る人口を養いきれず、大陸とまいますと、昭和初期当時の人口に戻るということは、国土面積がほぼ同じのイギリスやフランスの現状に近づくということです。

良くご存じのように、英仏両国は、経済規模では日本に及ばないものの、国家としての存在感は日本に勝るとも劣らず、とりわけ国際的な発言力は彼らの方が勝っているといわざるをえません。そしてこれらという新天地に望みをつないだのに対し、現在は逆に人口減少への対策に四苦八苦しているという点にあります。

私は、もしかしてこれは日本という国、あるいは秋田という地域社会にとって、千載一遇のチャンスではないかと思っています。具体的にいいの国で暮らす人々の間から、自らの人口について、少なすぎるというような嘆きや不満が聞こえてきたことはないように思います。

これらヨーロッパの老大国の有り様は、まさに日本のこれからのヒントになるのではないでしょうか。人口減少により、ひとりあたりの空間や面積は当然ながら広くなります。それを最大限活用した社会や産業を創造し、のびのびかつゆったりとした生き方が出来る国や地域の出現に備えるべき時期が近づいているのではないかと思うのです。

あの終戦直後、大陸や南方からの引揚げ者を加えても、日本の総人口は八千万人ほどでした。現在の三分の二ほどの人口で日本人は戦後の混乱期を乗り切り、後に世界第二の経済大国となるための基盤作りを行ったのです。

このように考えれば、人口減少もあながち悪いことばかりではないと思えてきませんか。ひとりあたりの生産性を上げれば、それはメリットにもなりうると私は思います。

ともあれ、新しい年が、皆様にとってよりよい年でありますように。

通常総会に百三十人が出席

「だより」は発行回数・様式を変更

平成十七年度の通常総会が、八月二十一日（日）秋田市のシャインプラザ平安閣秋田で、県内外から約百三十人が出席して開かれた。

総会は、初めに出席者全員で校歌を斉唱、物故会員へ黙祷を捧げ、榎昌範氏（昭50卒）の司会で進められた。

辻兵吉会長は「伝統のある同窓会と学校が一体となって今後とも秋田高校発展のためにご尽力いただきたい」と挨拶、続いて菅原洋校長が「今年度から各学年八学級となり生徒数は一千健児を割り九百六十名となった。来年度は理数科の定員が五名減り三十五名となる。今後も生徒の減少が続く厳しい状況だ。部活動は運動部・文化部も良い成績を上げており、文武両道という本校の伝統を受け継いで生徒はがんばっている」などと近況を報告。

次いで辻会長を議長として、会務および事業報告が新任の仙波昭彦事務局長（昭38卒）から、また、企画・財政・広報・名簿の各常置委員会から所管事項についての報告があり、インターネットのホームページへのアクセスが増えている、同窓会だよりを年三回から二回発行とすることで約二百万円削減できる、だよりはカラー写真の採用や用紙サイズの変更を行う、平成二十年発行予定の同窓会名簿については掲載する個人情報の取り扱いを慎重に検討したうえ行うこと等が了承された。

議事ではまず、平成十六年度収支決算報告、総会資料に初めて載せた二千四百万円余りの財産目録についての説明、監査報告が承認された。

続いて平成十七年度事業計画案と一般会計予算案が提案され原案通り可決された。事業計画では、常置委員会合同会議とインターネットのホームページ運営委員会議を必要に応じて開くことなどが盛り込まれている。また、一般会計では、同窓会だよりの発行経費の削減で同窓会基金へ百万円を繰り入れることなどが盛り入れている。

任期満了に伴う役員改選も行われ全会一致で承認された。

会　長　辻　兵吉（昭19卒）
副会長　山谷浩二（昭20④卒）
〃　豊口祐一（昭34卒）
〃　高橋智則（昭40卒）
〃　藤森節子（昭43卒）
〃　菅原　洋（昭40卒）

閉会後、軍縮担当の国連事務次長阿部信泰氏（昭39年卒）による記念講演（**四面掲載**）があり、午後五時から懇親会がなごやかに行われた。

平成16年度 一般会計決算
平成17年度 一般会計予算

《収入の部》　（単位：円）

科目	16年度決算額	17年度予算額	摘要
1.入会金	2,574,000	2,275,200	新入会員316人×7,200円
2.会費	12,710,000	12,000,000	延べ6,000人×2,000円
3.繰入金	0	0	基金会計から
4.協賛広告費	610,000	400,000	40コマ
5.基金運用収入	699	2,975	基金預金利息
6.寄付金	20,000	10,000	
7.会議収入	1,170,500	1,055,000	総会・理事会・入会式懇親会費
8.雑収入	48,065	10,000	預金利息・CD・先蹤録・記念誌など
8.繰越金	2,696,880	3,109,408	前年度より繰越
合計	19,830,144	18,862,583	

《支出の部》

科目	16年度決算額	17年度予算額	摘要
1.事業費	9,469,113	8,230,000	
だより発行費	7,910,554	5,900,000	年2回延18頁発行費・印刷代、送料・封筒・宛名ラベル
母校協力費	800,000	800,000	運動部助成費など
新入会員歓迎費	502,688	600,000	記念品代・菓・講師謝礼・案内状など
年次強化費	69,783	220,000	若年次同期会通信費・懇談会費補助など
知道会関係費	0	60,000	知道会との交流諸費用
事務局整備費	85,939	250,000	事務局備品・環境整備など
資料館整備費	100,149	400,000	秋高祭展示・写真・額・建物維持清掃など
2.会議費	3,147,464	3,820,000	
総会費	890,597	1,000,000	総会資料・講演謝礼・懇親会補助・当番年次打合会議
役員会費	894,855	900,000	役員会・理事会
委員会費	305,692	420,000	常置委員会・常置合同委員会・HP委員会、延12回
支部関係費	1,056,320	1,500,000	支部総会出席旅費・寸志など
3.事務費	3,804,267	5,270,000	
給料・手当	2,732,200	2,780,000	事務局職員2名分・アルバイト賃金
消耗品費	168,690	230,000	事務文具・各用紙代・ダスキン交換・複写機使用料など
印刷費	151,200	520,000	封筒・払込取扱票・私製葉書・役員名簿など
通信費	282,072	420,000	切手・官製葉書・電話・ファックス料金・インターネット回線など
手数料及び広告料	470,105	560,000	会費他払込手数料・広告料
機器運営費	0	760,000	機器整備修理・バージョンアップ・HP更新など
4.基金	0	1,000,000	
同窓会基金	0	1,000,000	
5.雑費	119,892	300,000	
慶弔費	98,980	200,000	祝電・弔電・祝金・慰労金など
雑費	20,912	100,000	タクシー代など
6.退職金積立	180,000	180,000	
退職金積立	180,000	180,000	事務局職員２名分
7.予備費	0	62,583	
予備費	0	62,583	
合計	16,720,736	18,862,583	

天上天下

人には本来、二十四時間周期の睡眠覚醒リズムが備わっており、その周期にしたがって生活していれば、生理上の大きな問題は発生しないと言われる。▼ところが最近、コンビニの普及や携帯電話、インターネットなどの発達で生活が全体的に夜型に移行しつつあり、健康にも悪影響が出るほどになっているらしい。▼生活の夜型化で、睡眠不足を訴える生徒が増え、小学生で五九％、中学生で六七％、高校生では七四％に達する。▼生徒の睡眠不足は、まず授業中の居眠りの急増という結果になって現われ、それはそのまま学力低下につながっていく。また、半覚醒状態での体育活動によるけがや事故なども無視できない状況にある。▼当然のことながら、大人の睡眠不足も深刻さを増しており、仕事の能率が低下傾向にあるという。▼警察、消防など二十四時間体制を崩せない分野もあるが、生徒や一般の勤め人などは、やはり人間に与えられた二十四時間周期のリズムを守ることが健康的だし、発電にともなう資源の節約から地球温暖化防止にまで役立つことはまちがいない。

講演要旨

転機に立つ国連と日本

軍縮担当国連事務次長　阿部信泰氏

最近の軍縮問題というのはなかなか難しい状況にあって、この五月に国連本部で核非拡散条約の会議があったが参加者の対立が厳しく、何の結論もまとめられず、核の削減も何の方針もだせなかった。

基本的には核軍縮か、アメリカなど非常に緊急性に駆られた国々が集まって少数でもいいからやるという一国主義の方向とのせめぎ合いがある。

この多国間主義と一国主義との対立が核非拡散会議でも根底にあり、イラクの濃縮ウラン、北朝鮮の核にもどうするか何の結論もでなかった。

日本は自分の国の安保理入りということで安保理改革が一番の関心事となっている。その背景については、国連の経費をどういうふうに負担するか分担金の比率が決まっている。アメリカと日本とドイツこの三カ国で国連の予算のほぼ半分を、上位十カ国で四分の三を負担しており、ほかの百八十一カ国で残り四分の一を負担している。

それにもかかわらず国連の加盟国百九十一のうち、アメリカなどの先進国は今や少数となり、これに対してアジア、アフリカ、ラテンアメリカなどの非同盟諸国、あるいは開発途上国などが圧倒的に多く、総会で投票するとアメリカはほとんどの場合敗れてしまう。従って平和と安全の問題を討議することになっている安保理を十分有効に機能するようにするというのがアメリカの重要な政策目標だ。

安保理の常任理事国と言いながらフランス、イギリスでさえ分担金は日本より遙かに少ない。中国は発展途上国、ロシアは非常に少ないのに拒否権を持っている。日本とかドイツは分担金を払うのみならずいろんな平和維持活動、ODAなどに協力しているが常任理事国にならないのはおかしいのではと議論している。しかし、なかなか実現は難しく、最近はアフリカ諸国連合との妥協もうまくいかず成案ができていない。一方、アメリカなどは安保理が迅速に効果的に寄与するためにはあまり数を増やしてはいけないと反対している状況だ。

〔略歴〕昭和二十年大館市生まれ　三十九年秋田高校卒　四十二年外務省入省　五十八年外務省欧亜局西欧第二課長　平成八年国連日本政府代表部公使　十五年国連事務次長

東京芸術座の演劇鑑賞

10月19日(水)、秋田県民会館での「芸術鑑賞教室」は、東京芸術座による演劇「Challenged―遠い水の記憶の―」を鑑賞した。

内容は、水泳選手としてオリンピックへの切符をほぼ手に入れながら、最終選考会で落選した選手と盲学校の生徒との交流を通して人間の成長を描いたものである。「水泳は敵と戦うスポーツじゃない自分自身と戦うスポーツだ！」「人生で大切なことは、何を成し遂げたかではなく、どう生きたかではないか」

公演後に劇団の方々と話をする機会を得た本校演劇部の部員によると、舞台化に当たって団員たちは実際に盲学校へ足を運んだという。しかし、学校や生徒らの反応は決してよいものではなかったことや水泳の世界が果たして芝居として可能かなど、多くの不安を抱えながらのスタートであったそうだ。舞台も抽象的な設えの中に時折豆腐屋の食卓という具体的空間を入れるなど、観客との接点を取り入れようとする工夫の跡が見られた。

公演の度に改善・工夫を重ねてきた団員たちの試みもまた一つのChallengedであるように感じた。

社会福祉法人 サンふくし会
知的障害者通所授産施設
サンハウス
所長
佐藤義則
(昭和30年卒)
〒010-1403
秋田市上北手荒巻字荒巻312番地
TEL 018－892－6650
FAX 018－892－6651

ひらめき・はかどり・ここちよさ
KOKUYO
コクヨ東北販売株式会社
取締役会長
岸部恵一
(昭和30年卒)
〒010-0061
秋田市卸町4丁目7番7号
TEL 018－862－6345
FAX 018－862－6460
URL http://www.kokuyo-touhoku.com/

医療法人
下山胃腸科内科医院
下山維敏
(昭和30年卒)
〒014-0014
大仙市大曲福住町2－23
TEL 0187－63－5110

電力線・ケーブル・光ケーブル
光部品・ヒーティング商品
北日本電線株式会社
取締役会長
新田目倖造
(昭和30年卒)
〒982-8511
本社 仙台市太白区鈎取字向原前6番2号
TEL 022－307－1800
FAX 022－307－1763

恩師訪問

神馬 遅 先生

今回は、ご自身も同窓生であり、後に、母校で九年間にわたって教鞭を執られた神馬遅先生にお願いした。昨年の十一月十八日(金)に羽城館（同窓会館）まで足を運んでいただき、柴山広報委員長がいろいろお話を伺った。

最初に、秋田高校在学当時の模様をお話し下さい。

私は、昭和十九年の四月に秋田中学に入学し、二十五年三月に秋田南高校を卒業しました。学制改革の時期と重なっていたため、合計して六年間、秋高に在籍していたことになります。秋田中学の帽子の白線と黒マントにあこがれて入学したようなものでしたが、在籍期間が長かったため同期生同士の仲はもちろん、一学年上と下の学年の生徒とも仲が良かったものです。当時は山本町からの列車通学でしたが、秋中生と秋田高女の生徒の座席は固定されていて、毎日ちゃんと座って通学できました。二年生の時に終戦になったのですが、その年の秋に野球部が復活したので早速入部し、キャッチャーとして毎日練習に明け暮れました。

秋高卒業後はどのような進路に進まれたのでしょうか。

自分の希望としては医学の道に進みたかったのですが、目の都合でそれは断念せざるを得ず、次に考えた検察官は、当時の担任の畠山高範先生から、君の今の学力では無理だと諭されてしまいました。国語担当でサッカーの得意な大変すばらしい先生でしたが、若くして亡くなられてしまいました。私は結局、家の事情もあって教員を目指すことになり秋田大学に入学、秋大でも野球をやりました。東北北海道大会で優勝し、第一回の全国大学選手権大会に出場して慶応大学と対戦しましたが、その時の投手が、後にプロ野球巨人軍のエースとして活躍し、さらには監督も務めて巨人を日本一に導いた藤田元司投手です。バッターボックスに立って初めて「球が鳴る」というのを実感しました。

秋大卒業と同時に教職に就かれたと伺っていますが。

その通りです。最初は五城目中学校で四年間過ごし、次いで、昭和三十三年四月から四十二年三月まで秋高に勤務しました。秋高を出た後は金足農業、秋田工業、秋田南と移り、十三年前に、三十八年間の教員生活を終えて定年退職致しました。退職後は、英語の講師として多少私立学校のお手伝いもしましたが、現在はまったくのフリーになっています。

ここらで、秋田高校に勤めておられた頃のお話を中心にお願いしたいと思います。まず、ご専門の社会科について。

秋高に赴任した時は二十六歳でしたが、私が生徒であった時分の直接の恩師がたくさんおられて大変でした。しかし、学識が高く、個性豊かな先生たちで、とても勉強にもなりました。また、社会科には地理、歴史、政治経済等の分野がありますが、私は、「一般社会」という科目に始まって、日本史以外は全部やりました。社会科という教科は、社会の事象と密接に関連していますので、授業の始まりにはいつもその時の時事問題を取り上げるようにしました。人間社会というのはいろいろな分野が相互に関連しているものですから、社会科を地歴科と公民科に細分化したのはどうかと思います。

校務分掌は主にどういう分野を担当なされたのでしょう。

一番多かったのは生徒会です。下駄履き禁止問題では生徒たちとずいぶん議論しましたが、結局、交通安全という観点で生徒諸君も納得してくれました。モータリゼーションが急速に進んでいるのに、まだ下駄履きも残っていた時代でしたから。また、現在よりはるかに大規模に行われた学校祭のクラデコなども印象に残っています。ある年、三年生の某クラスが竜安寺のすばらしい石庭を再現して大いに注目を集めたのですが、結局入選には至りませんでした。それだけ個性を大事にしていたということの裏返しです。

神馬先生といえばすぐ硬式野球部と結びつきますが。

そうですね。秋高への転勤にあたっては、野球部の指導ということも暗黙のうちに含まれていましたから。当時は、監督は民間人で、部長は校内の大先生という布陣でしたので、私はコーチといった立場でした。甲子園には、昭和四十年の春夏連続と四十一年の夏の合計三回出かけました。中でも、鐙、大久保の両投手を擁し、準決勝で、その大会で優勝した三池工業に四対三で惜敗した四十年の夏は、相手の倍以上の九本のヒットを放っていただけに残念でした。

最後は、三十八年間を通じての先生の教育上のモットーや、現代の教育全般に対するお考えをお願いします。

モットーと言えば、それは、生徒第一ということですね。生徒とピタリとくっつき、生徒と同じ言葉を使う。教育の場面では、絶えず生徒の視線でものを見るということです。また、それと並んで保護者との連携もとても密にしました。これからの課題としては、保護者の学歴が高くなったことも影響して、教師は生徒よりも保護者に気遣いしがちになっていますから、まず、それを改め、さらには、万事専門化、細分化することによって生じてきた「よく訓練された無能力者」の問題を再検討してみることがぜひ必要だと思います。教師自らがもっと自らの個性を豊かにしていくと同時に、ギスギスしがちな最近の社会全体に、もう少し自然で温かな触れ合いが望まれますね。

つどい

追分三叉路会総会
三浦館見学会を実施

平成十七年十月二十九日、追分三叉路会総会開催に併せ、金足黒川地区にある「三浦館見学会」を行った。

豪壮な主屋を中心とした敷地面積約四千坪という館に、参加した会員からは次々と感嘆の声があがった。秋雨の中ではあったが、満ち足りた一時であった。

見学会実施にあたり黒川町内会古井義次会長、保存会田中祐介様にご協力頂いた。感謝申し上げたい。

三浦館とは

三浦館は、藩政時代に肝煎を代々勤めた郷士三浦氏の館で、秋田市金足黒川地区に文久元年（1861）に建てられた。主屋を中心に米蔵、表門など計九棟の建物と京都の庭師によって造られたとされるひょうたん池を配した庭園がある。平成十六年三月より秋田市指定文化財。

重厚な建物と歴史の深さに息をのむ

総会で役員改選　新会長に渡辺一男氏

新役員は以下の通り

名誉会長　小野　又雄（S18卒）
顧　問　鎌田　圭喜（S22卒）
　　佐藤治三郎（S25卒）
　　吉成俊太郎（S26卒）
会　長　渡辺　一男（S27卒）
副会長　佐藤賢太郎（S32卒）
　　近藤　隆（S33卒）
　　斎藤　常雄（S42卒）
会計監査　伊藤　勲（S31卒）
　　斎藤　喜憲（S45卒）
幹事長　藤原　正三（S46卒）

鹿角支部総会

平成17年6月13日
於　松屋（鹿角市）

秋中19年卒同期会

平成17年8月29日
於　平安閣秋田

汀友会　加賀谷殷氏を新会長に選出

平成十七年十一月二日、秋田高校土崎地区同窓会（汀友会）の総会がホテル大和で開かれた。

今年から、土崎地区に隣接する、将軍野地区の同窓会員にも参加を呼びかけた所、九十八名の参加を得て盛会となった。

安田庄一会長（S23卒）の挨拶の後、議事に入り、役員改選では加賀谷殷新会長（S35卒）らが選出された。

懇親会では辻同窓会長、菅原学校長から挨拶を頂き、会員による港ばやしも披露された。

（品田福男　記）

会員による港ばやしも披露

健康で明るい毎日を！
寺田薬店
寺田昭士
（昭和30年卒）
〒014-0022
大仙市大花町22－4
TEL/FAX 0187－62－0682

株式会社 武蔵堂
代表取締役
杉山良一
（昭和30年卒）
〒011-0946
秋田市土崎港中央五丁目11番28号
TEL 018－845－1760
FAX 018－846－9243

清三屋施設工業株式会社
代表取締役
高橋正男
（昭和40年卒）
〒010-1611
秋田市新屋天秤野5－18
TEL 018－864－9311
FAX 018－865－1327
E-mail kiyo-38@acbb.net
http://www.acbb.net./~kiyo-38/

美好腎クリニック
内科・血液透析
中西祥子
（昭和40年卒）
〒010-0011
東京都府中市美好町3－13－2
グランディ府中1F
TEL 042－366－8333
FAX 042－366－8431

近畿支部

甲子園・花園への熱い思いを語り合う

平成十七年十月二十二日、大阪梅田「阪神グリーンルーム」に於いて近畿支部総会を開催。集う者四十八名。渡邊良宏支部長の挨拶、支部規約改正等の議事に続き役員改選を行い、新支部長に宇佐見一雄氏（S33卒）が満場一致で選ばれた。

続いて菅原校長より学校事情について、また仙波同窓会事務局長からは本部の近況についてお話頂いた。特に菅原校長からは「生徒数の減少により来年は全学年八学級になり校歌に歌う一千健児を割り込むことになる。しかし校内の活気は衰えていないし、各部活動も好成績を挙げている。」とのお話を聞き、近畿支部員は、甲子園、花園へ熱い思いがあるだけに大いに期待する旨をお伝えした。

秋高28会

平成17年10月11日
於　パレスホテル（東京）

秋高32会

平成17年9月9日
於　ホテルメトロポリタン秋田

94名が大集結

昭和53年卒同期会

八月十四日、昭和53年卒同期会を三井アーバンホテルにおいて開催しました。男性の厄年にあたる平成十二年に、五年後の再会を誓い合いましたが、これを実現させる形となりました。

B組川口百合子先生、C組宮本栄先生、D組柴田俊二先生、I組小野寺清先生、J組湊潤二郎先生にご出席いただき、九十四名の仲間が集いました。

秋田県教育長としてご活躍の小野寺先生からは、四十代後半に入った我々の社会的責任についてお話をいただき、一同襟を正す場面も。懐かしい話に花を咲かせ、最後は、白手袋を持参した応援団長鈴木哲君のエールで校歌を斉唱。五年後の再会を誓い、閉会となりました。

あいにくの雨の中、二次会にもほとんどの方が参加。（同期の佐藤誠君が経営する居酒屋「ひのくるま」で必要以上に打ち合わせを重ねた成果か？）大盛会でした。

Ｃｔ ¢ ‰ ″Ｃ ′ « ｉ
住まいの増改築なら
㈱トータルリペアー
代表取締役
高橋　基
（昭和40年卒）
秋田市新屋天秤野４－８
ＴＥＬ ０１８－８６３－０４３８

医療法人
小玉耳鼻咽喉科
理事長
小玉直志
（昭和40年卒）
〒963-0206
福島県郡山市中野１－23
ＴＥＬ ０２４－９５２－３６３８
ＦＡＸ ０２４－９６１－９５８０

こまつ歯科医院
小松純一
（昭和40年卒）
〒011-0941
秋田市土崎港北７丁目７－21
ＴＥＬ ０１８－８４６－６１００

代表取締役社長　辻　良之
（昭和50年卒）

卒業50年と古稀を祝う

首都圏三〇会

卒業五十年という節目の年、我々もついに古稀を迎えた。

平成十七年九月十三日、古稀を互いに祝うべく名古屋の熱田神宮へ参集した面々は三十名。

はるか記紀神話に由来をもつというこの社で神妙に祝詞の奏上に耳を傾け、お祓いを受けた。

夕刻、浜名湖畔の館山寺温泉に再集合。卒業五十周年の記念祝宴である。

紫紺の同窓会旗を高く掲げ、物故の同期生を偲び黙祷を捧げた後、多くの参加者から豊かな半生を思わせるスピーチあり、年季の入った芸ありの賑やかなひとときであった。

最後は恒例により校歌で締めをむかえた。

宴も果て、ホテルの屋上の露天風呂で、夜風に身を曝しながら見上げた朧月はなかなかのものであった。（荻原　記）

まいど!! 関西燦々会だす

昭和33年卒関西地区同期会

関西地区の燦々会は毎年一月に新年会、夏には納涼会を開催している。開催にあたっては、国元の本家燦々会の幹部連中に泣き付き故郷の山海の珍味を無心する。長年の浪速生活で大阪のオバチャン顔負けの抜け目なさも身につけた。差し入れのお陰もあり毎回のように大盛会である。

また平成十七年度の近畿支部総会で当会会員の宇佐見一雄君が支部長に選ばれた。当会員一同も、新支部長とともに支部運営に微力を捧げたい。

秋中21・22同期会

平成17年7月22日
於　駒ヶ岳観光ホテル

昭和26年卒同期会

平成17年10月7日
於　協働大町ビル

秋中二〇四同期会

平成十七年八月三十一日午後五時、同志二十五名が川反の料亭「濱乃家」に集合。一年ぶりの再会に思いも新たに卒業六十周年を祝った。ちなみに十年前の参加者は五十名だったとのこと。

緑の酒は心地よく、中にはお猪口ではもどかしく、コップで冷酒をぐい飲みする豪傑も多々見られた。

（石井直明　記）

論壇

「座頭小路のいちょうの木」

NPO法人あきたパートナーシップ
理事長　丸の内　くるみ（昭和38年卒）

みなさんはホテルルートイン（旧ニューグランドホテル）の北側の小路が、「座頭小路」と呼ばれていることをご存知だろうか。そこには樹齢四百歳のいちょうの巨木がある。これが「座頭小路のいちょうの木」だ。この木には「昔、小金を持っていた座頭がここを通った時に、武士にねらわれ斬殺され、持っていた杖から根が伸びて、大いちょうになった」とのいわれが伝えられていて、昭和四十九年に秋田市の保存樹に指定されている。

昨年、所有者の一部からこの木を切りたいので、保存樹指定を解除してほしいとの申請が出された。市では保存樹に関する部会を開き、「解除も止むを得ない」と話し合われ、もう少しで市長の決定が下りるところであった。

部会の決定を伝え聞き、地域の人などと一緒に「いちょうの木を守る会」を結成した。所有者の事情もあるので、いわれのあるこの木を市で保存管理してほしいと申し入れた

が断られ、署名運動を展開し約六千名の署名を集め、市に要望書を提出した。署名活動の過程で、解除申請は所有者の総意でないことがわかり取り下げられ、いちょうは切られずに済んでいるが、活動の中で、市内の街路樹に関連して、様々なことが見えてきたので報告したい。

まず保存樹の制度は、土地開発の嵐から市の由緒ある緑を守ろうと定められたにもかかわらず、所有者から解除申請が出されればほとんどが受理され、巨樹、巨木を守る役目を果たしていない。

JR土崎工場隣接地には、地域の人々が花見を楽しんでいた桜の木が十二本あった。昨年、宅地造成しようとした業者が、せめて二本の名木は残して公園にしようと市の担当者と話し合った。しかし桜に虫がついたら困るとか、子供が根に足を取られて怪我をしたら大変などの理由で、桜を残すと開発許可を下ろさないと言われ、業者は木を切らざるを得なかった。まちづくりとは、地域住民が愛している町なみを大切にすることが、基本ではないのか。

さらに、横町から新国道まで通る都市計画道路が決定されて久しいが、お堀の下を通る秋田中央道路が整備されることになっても見直されず、歓喜寺の欅の保存樹七本が伐採予定となっている。私たちは緑豊かな自然に生かされてきた。しかしその自然を、本当に大切にしてきたと言えるだろうか。

「みんなの登校日」二回開催

学校・家庭・地域社会の一層の連携と協力の下、本県教育の充実と発展を図るねらいで今年度県教育委員会が実施した取り組みに「みんなの登校日」がある。本校でも六月と十一月の二回実施した。

実施内容は、第一回目は学年PTAと抱き合わせる形で東北大学学長をはじめとする各種講演会（77号に掲載）を行った。第二回目は理数科研究発表会を公開する日に合わせて国際教養大学学長などの講演会を行った。十一月は六月に比べると授業参観者が少ないものの、課題研究発表会への中学生の参加もあり、関心の高さは感じられた。また、一年生の美術選択者を対象として行われた鎌田俊夫先生の講演会では、七月二日～八月三十一日まで羽城館で開催された同氏による作品展と重ねた次のような生徒の感想も得られた。

「僕がとても強く印象を受けたのは、先生の芸術に対する意気込みと熱意です。実際に目の前で見ると、すごさを実感できました。物事を成す上で重要なのは、熱意を持って取り組むことなのだと強く感じました。そして、人のために行動することが、何者にも勝る原動力となるのだと知りました。作品は長い長い歳月を経て、後々まで残り続けるものです。過去から未来へと、創造性をつないでいく、芸術家はただ作品を作っているのではないと気づきました。」

総合建築業
秋田土建株式会社
代表取締役社長
北林一成
（昭和50年卒）
本店／北秋田市米内沢字倉の沢出口5-1
TEL 0186－72－3001
FAX 0186－72－3004
本社／秋田市山王五丁目6－20
TEL 018－823－2597
FAX 018－823－2591

石田歯科医院
〈診療時間〉
平　日 9:00~12:30 14:00~18:30
土曜日 9:00~13:00
日曜・祭日 休診
石田達郎
（昭和50年卒）
〒010-0011
秋田市南通亀の町5－7
☎ 018－832－5482

昭和50年卒硬式庭球部一同
（昭和49年インターハイ福岡大会男子団体出場）
母校の発展と同窓生の皆様方のご活躍をお祈りします
尾形　芳明　清野　洋介
丸山　進　加藤　利直
成田　道彦　三浦　和也
佐々木誠治　挽野　公毅
笹本　公明　船木　紀生(主将)
伊藤こう子　佐藤由美子
（当時は一面のコートで男女一緒に同じ部として練習してました）

郷土の環境をよりよくするために
ISO14001 認証取得企業
秋田環境測定センター㈱
代表取締役
森　洋
（昭和50年卒）
TEL 018－864－1281
FAX 018－864－1282

ひととき

寺田和子（昭和38年卒）

「「ポプラの樹からポプラの葉」
なんの不思議もないけれど
考えてみると
やっぱり不思議なこと」

だれの詩かわかる？
と　息子
わかる、答えながら
懐かしむ

ふくよかな　微笑み
ゆったり　語られる　ことば

ポプラ　は　ポプラ
息子　は　息子
それぞれ　根を張り
枝葉を　茂らせて
やがて
いのちの満ちるとき
訪れる　明日が　あるだろう

「「ポプラの樹から　ポプラの葉」
なんの不思議もないけれど
考えてみると
やっぱり不思議なこと」

夢みる　明日が　あることは
やっぱり　不思議
いま　を　たゆたう
思い　を
静かに　受けとめて

註　「　」（引用部分は新川和江さんの詩句）

文芸作品募集

本紙では、随時、文芸作品を募集します。ふるってご応募のほどお待ちしております。なお、採否については、広報委員会にお任せのほどをお願い致します。

一、募集作品

(1)詩……本文三〇行以内
(2)短歌…五首で一作品
(3)俳句…五首で一作品
(4)川柳…五首で一作品
※各部門とも、必ず作品題をつけてください。

二、応募上の注意

(1)氏名と卒業年次を明記して下さい。
(2)全部門に応募できますが、一人一部門につき一編とします。
(3)使用する漢字は当用漢字とし、それ以外にはルビを施して下さい。

部活動　大会戦績

◇陸上競技
中央支部新人
男子棒高跳び　2位齊藤宏大
男子8種競技　3位伊藤優也
男子4×100mリレー　2位

◇バスケットボール
中央支部新人　準優勝

◇バレーボール
中央支部新人　3位

◇卓球
中央支部新人
男子団体　準優勝
男子ダブルス
2位　松渕健一・渡部　潤
3位　松橋　裕・赤坂仁志
男子シングルス
優勝　松渕健一

◇バドミントン
中央支部新人
男子団体　3位
男子個人シングルス二部
ベスト16　石山
女子団体　3位
女子個人シングルス
3位　石塚
ダブルス一部ベスト16
竹越・近江谷
同二部　ベスト16
堀口・畠山
梁田・大信田
全県新人
男子団体
二回戦　秋田1―3米内沢
女子団体
一回戦　秋田0―3大館
女子個人
ベスト8　石塚佐都子

◇ソフトテニス
中央新人
男子団体　優勝
決勝　秋田2―1秋田中央
男子個人
草階・石塚ペア、鎗目・今野ペアともにベスト4
全県新人
男子団体三回戦
秋田0―2横手清陵
女子団体一回戦
秋田1―2能代商業

◇テニス
全県新人
男子団体一回戦
秋田0―5大館
女子団体　3位

◇サッカー
中央支部新人
決勝　秋田0―4秋田商
準優勝
全県新人　ブロック2位

◇ラグビー
中央支部新人　3位
全県新人　3位

◇山岳
中央支部新人
男子Bパーティ　2位
白川・鈴木・三浦・竹谷
女子Aパーティ　優勝
遠藤・伊藤
個人男子
読　図　1位　鈴木将成
天気図　1位　鈴木将成
知　識　1位　菅　伸生
全県新人
男子団体　2位

麻酔科（宮澤一治）・内科・放射線科
みやざわペインクリニック
Miyazawa Pain Clinic
院長　宮澤一治
（日本麻酔科学会認定麻酔科専門医）
（昭和60年卒）
診療時間　9:00～13:00・15:00～18:00
（18:00まで受付しております）
※第2・4日曜日は9:00～13:00
休診日　水曜日、第1・3・5日曜日、祝日
アルヴェ（秋田拠点センター）4階　アルヴェ駐車場ご利用の方には駐車券をお渡ししております
☎018-825-5355

近江直人法律事務所
弁護士
近江直人
（昭和60年卒）
〒013-0051
秋田県横手市大屋新町字大平593番1
TEL　0182－33－3238
FAX　0182－33－2753

個人
総合　2位　渡邊和博
　　2位　佐賀貴正
読図　2位　安田龍平
　　2位　菅　伸生
知識　2位　渡邊和博

◇弓道
全県新人
女子個人
　6位　大渕あかね

◇剣道
中央支部新人
男子団体
　予選リーグB　第2位
女子団体
　予選リーグA　第2位
　2位リーグ　第3位
男子個人
　2位　山崎　洵
　ベスト16　磯崎陽貴
　　鈴木翔大
女子個人
　ベスト16　富樫　円
　　菊池茜恵
全県新人
男子団体　準優勝
女子団体　3位
〈東北選抜大会出場〉
男子個人　3位　山崎　洵

◇柔道
中央支部新人
　個人73kg級優勝　二階堂拡
　66kg級2位　斎藤雄仁
全県新人
　個人73kg級優勝　二階堂拡

◇漕艇
全県新人
男子シングルスカル
　2位　太田　翔
男子ダブルスカル
　2位　秋田A
　　門間拓也・阿部皓
　4位　秋田B
　　細井拓也・阿部雄太
東北選抜
男子シングルスカル
　太田　翔
男子ダブルスカル　2位
　門間拓也・阿部皓
〈ダブルスカル
　全国選抜大会出場〉
　敗者復活　3位

◇水泳
全県新人
男子100M背泳ぎ
　4位　川村直輝
同200M背泳ぎ
　3位　川村直輝
同100M平泳ぎ
　8位　武田泰基
女子100Mバタフライ
　3位　田中菜摘子
同200Mバタフライ
　3位　田中菜摘子

◇硬式野球
秋季中央地区大会
　準決勝　秋田0―5本荘
秋季県大会
　準決勝　秋田6―9秋田商
　第3代表決定戦
　　秋田8―2横手
秋季東北大会
　秋田1―6青森山田

◇軟式野球
秋季大会
　1回戦　秋田0―4秋田商

◇フェンシング
中央支部新人
　男子　優勝　石井　崇明
　女子　2位　面山　結

◇少林寺拳法
全県新人
　組演舞1位　堀井　咲希
　単演舞1位　堀井　咲希

秋高同窓会の個人情報取扱規程 ガイドライン

秋田県立秋田高等学校同窓会会長
辻　兵吉

1、個人情報に対する基本姿勢　本会は、個人情報保護法の趣旨を尊重し、「同窓会における個人情報取扱規程」を定め実行しています。

2、本会が保有する個人情報　本会は会員の個人情報（卒業年、氏名、郵便番号、現住所、電話番号、勤務先、勤務先電話番号、出身大学、会費納入状況）を保有しています。

3、個人情報の利用目的　本会は会員の個人情報を以下の目的で利用させていただきます。①同窓会報等の発送、会費の徴収、納入通知、寄付金の依頼、及びこれに関し必要とされる連絡、通知　②その他、会則に定める事業を遂行する目的のために限って使用します。

4、第三者への開示・提供　会員本人の同意がある場合と、法令に基づく請求の場合以外は会員の個人データは、同窓生以外の第三者へは、開示・提供はいたしません。また、同窓生からの利用申請に対しても、不都合があると判断した場合は、会員の個人データの開示・提供をお断りします。なお、同窓会員名簿の作成、発行に際しては、別途本人の承諾を得た項目のみを掲載します。

5、会員の責務　会員は入手した会員の個人データを同窓会活動以外には使用しないでください。また、第三者へ同窓会員名簿及び会員の個人データを提供しないでください。

6、個人情報の適切な管理　会員の個人情報は、正確かつ最新のものに保つよう努めるとともに、その機密保持には万全を期します。また、会員の個人情報の入手に際しては、直接本人から許可を得て行い（確認カード等で）、本人同意のない間接収集はいたしません。登録を希望しない項目は、抹消の処理をいたしますので、事務局までお申し出ください。また、同窓会員名簿等の作成に際し、外部業者へ業務委託を行う場合につきましても、会員の個人データの受け渡し、保管、返却を厳重に監督し、会員の個人データの流出防止に万全を期します。

7、苦情、請求、不服申し立ての申立先　窓口　同窓会事務局個人情報保護管理者（事務局長）仙波昭彦
　ＴＥＬ 018－832－9553
　ＦＡＸ 018－832－9588
　E-mail　aki-doso@cna.ne.jp

＊　ホームページでも、「同窓会における個人情報取扱規程」等を掲載しますのでご覧下さい。

会務事項報告

17年
8・21　通常総会
9・5　宇都宮支部総会
9・16　臨時広報委員会
10・4　企画委員会
10・11　大曲支部総会
10・14　財政委員会
10・15　札幌支部総会
10・19　名簿委員会
10・22　近畿支部総会
10・26　当番年次会議
10・29　追分三叉路会総会
11・2　汀友会総会
11・4　広報委員会
11・14　役員会
11・19　茨城秋高会総会
11・24　本荘支部総会
12・2　理事会
18年
1・27　「同窓会だより」七十八号発行

事務局だより

●年次独自の印刷物を「同窓会だより」に同封したい場合は、事務局に申し出て下さい。同窓会活動活性化対策の一つとして協力したいと思います。

●同窓会ホームページのアクセスは、予想より若干少ないようです。どうか一度のぞいて見て下さい。

URL http://www.akitahs-ob.gr.jp/

●今年度分会費未納の方には再度「払込取扱票」を同封しました。どうかご協力下さい。「だより」発行の関係で行き違いがありましたらお許し下さい。

●「NPO法人東海林太郎伝承会」については、昨年八月の同窓会通常総会で入会及び寄付の依頼がありました。ご協力いただける方は、左記の伝承会事務局までお申し込み下さい。

〒010-0921　秋田市大町2-1-11　榮太楼菓子舗大町本店2階　TEL・FAX 018-823-5145

●事務局長交替から早くも一年が過ぎようとしています。不慣れのため色々ご迷惑をおかけしましたが、今後共よろしくお願いいたします。

寄贈作品（木彫）

『八郎太郎I』鎌田俊夫（昭38卒）

寄贈図書

『水の国より』柴山芳隆（昭36卒）

哀悼（敬称略）

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

17年
2月　信太邦夫（昭18）
佐藤儀一（昭18）
佐藤甲子夫（昭18）
3月　三浦維四郎（昭16）
4月　斎藤恭子（昭34）
鈴木正明（昭29）
吉川重久（大15）
中野通男（旧職員）
小西文男（昭29）
5月　瀬谷修（昭25）
大桃文夫（昭12）
山田浩司（昭29）
6月　渡辺六郎（大12）
古木輝導（昭17）
遠藤三郎（昭6）
畠山一郎（昭8）
梅津達郎（昭25）
佐藤晴朗（昭29）
富樫隆（昭19）
小松茂三郎（昭13）
小仲幸雄（昭50）
武田端夫（昭32）
7月　小玉健吉（昭12）
松倉庄右衛門（昭2）
加藤久一郎（昭31）
長崎五十武（昭26）
有坂孝一（昭11）
池田柾博（旧職員）
船木茂（昭7）
玉谷貞雄（昭21）
8月　大黒強（昭34）
高橋紘一（昭34）
脇坂憲雄（昭32）
佐藤裕二（昭19）
佐々木正（昭13）
仁井田勇（昭17）
佐藤令自（昭21）
伊藤廣吉（昭12）
中村康造（昭20 ⑤）
谷内佐紀子（旧職員）
楠見清（昭30）
9月　阿部武次（昭6）
浅野俊夫（昭26）
水澤研一（昭25）
高橋宣雄（昭16）
志度和夫（昭23）
芳賀忠正（大15）
渡部久夫（昭33）
菅丑之助（昭18）
木元一俊（昭33）
千葉直人（昭23）
10月　小玉順一郎（昭20 ⑤）
清水昌三郎（昭28定）
浅山正夫（昭8）
石田達也（昭22）
田中善太郎（大12）
小熊良瑩（昭10）
岩間建雄（昭39）
佐々木浩（昭28）
加賀谷銀一（昭11）
猪股一也（昭25）
佐藤鉄也（昭40）
11月　辻金治（昭29定）
志田豊吉（昭4）
中塚真人（昭40）
熊谷節三（昭28定）
石塚忠彦（昭38）
山信田隆四（昭17）
村岡昭（昭38）
喜多川武（昭21）
岡睦夫（旧職員）
伊藤重秀（昭45）
12月　境田伝（昭20 ④）
近江満（昭31）
小西庄一郎（昭12）
和田吉雄（昭15）
宮澤惟安（昭23）
高橋三男（昭27）

編集後記

すでにお知らせしてあるように「だより」の発行が年三回から二回になりました。それに伴い、読みやすさ親しみやすさという点も加味しながら紙面のサイズ、構成、内容等に変更を加え、一部カラー化も致しました。まだまだ改善改良の余地がたくさんあるかと思いますので「だより」をよりよくするためのご意見を積極的に広報委員会または事務局にお寄せ下さるようお願い致します。